

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名 ポピンズナーサリースクール西五反田

所在地 東京都品川区西五反田8-10-8

1 活動のテーマ

「音」～音を知り、自分だけの音を作る

<テーマの設定理由>

身近な生活の中や新たな環境の中にある「音」を見つけたり感じたりして、知る。

自分だけの音を作り、創造の世界を広げる。

音や楽器を通して、様々な文化がある事を知り、世界や地方へ目を向ける力を育む。

2 活動スケジュール

2026年2月10日（火）13：30～14：30

対象児：5歳児クラス9名

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

空のペットボトル、ヨーグルトのカップ、プラスチックコップ、紙コップ、牛乳パック、卵のパック

どんぐり、鈴、ビーズ、竹串、カラークリップ、ビニールテープ、セロテープ、舌圧子
ペットボトルに砂を入れたもの

水性マジック、油性マジック、えんぴつ

図鑑

4 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・サークルタイムの形になる。
- ・空の透明ペットボトルの音を知る。
- ・空の透明ペットボトルに、少し水をいれ、その音を知る。
- ・空の透明ペットボトルに、園庭の土をいれ、その音を知る。
- ・楽器（タンバリン）の音の出し方を考えてみる。叩く、振る、鳴らす、指で触る。

- ・事前に牛乳パックの中に、舌圧子やどんぐりを入れたおいたものの音を慣らし、何が入っているか考えてみる。
- ・廃材や道具を利用して、自分だけの楽器を作る。
- ・一人ずつ、作ったものを発表する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ①空の透明ペットボトルを振ってもらい、どんな音が聞いた。
振ると「水の音がすると思う」と数滴の水が入っていたのに気づき、中身をみていた。
その言葉につられ、皆も確認しながら振って見ていた。
- ②数滴の水滴に、少し水を足してみる事にして、再び振ってもらう。
「しゃかしゃかする」という感想。
- ③透明ペットボトルに園庭の土をいれたものを渡して、同じく振ってみた。
ふざけようと思ったのかわざと、自分の身体に当てるお子様もいた。
「そんな音の出し方もあるね、いいね」と伝えると、驚いて、
何度も堂々とやってみたり、振ったりしていた。
他のお子様も真似してやってみていた。
タンバリンを見せて、タンバリンは叩くことで音を出すけど、
振ったりしても音を出すよね？色々な慣らし方もあって良いと思うと伝えた。
タンバリン、ピアノ、ピアニカとかは、何の仲間だか知っている？と聞くと
難しい顔をしていた。「がっそう。。？」というお子様、「おいしいね」
「がっきというんだよ」
「タンバリンもピアノもピアニカも楽器の仲間と呼びます。」と伝えた。

「さっきはしゃかしゃか、こんどはさらさらだね」と話していたお子様がいた。
「ぶについていう名前つけたい」「じゃぶじゃぶって音がする」と
水を入れたペットボトルの方を気に入ったお子様もいた。



- ④牛乳パックの中に、舌圧子を入れたものを渡し、「何が入っていると思う？」と
問いかけた直前にドングリを見たお子様が、
「どんぐりでしょ」と言いながら振ると、予想していない軽い音だった様で、
驚いていた。
牛乳パックの中に、ドングリをいれたものを渡し、「何が入っていると思う？」と
問いかけた。
振ってみたお子様は、「これ、ドングリだ！」と予想して考えていた音だった様子。
牛乳パックをあけて、答え合わせをすると「アイスの棒だったー」
「え？ドングリこんなにちっちゃいのがはいつたの？もっと大きいと思っていた」と
いう感想があった。



- ⑤ここにある素材を自由に使って、自分だけの楽器、マラカスを作ってみる提案をした。各々、悩み続けるというよりは、自分の使いたい材料をすぐに決めて、とりかかっていた。
- ⑥色々な素材を沢山入れたいお子様が多かった。水を入れたいと希望するお子様もいたが、今回はここにある素材で考えるというルールにした。



- ⑦出来上がってきたお子様に、何の素材を入れたか、書いてもらう事にした。名前をつけたいお子様は、考えておいて、書いても良いし、あとで発表してねと伝えた。

全員出来上がったので、発表会をします。お名前を言って、何に何を入れたのかというお話と、振って音を聞かせてくださいとお約束をし、一人ずつ前にでて発表していた。

- ⑨会が終わった後も、マラカスを振り続けたり、自分の作ったマラカスをタンバリンに当てて、太鼓として楽しむお子様の姿があった。

- ⑩玄関に置き、全クラスが触れられる様にした。0-2歳児のお子様やスタッフが自由に触ったり、欲しがる4歳児や2歳児のお子様もいた。



5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

結果を重視するのではなく、お子様の活動中のつぶやきや発言を大事にし、その場で取り込みながら、実施する事を重視して活動を行った。

楽器という言葉が伝わらなかったが、最初からその言葉を使うのではなく、流れの中で伝える様にした。

お子様達が、わざと違う事をしたくなったりする気持ちは当たり前にある事で、その行動が危なくなければ、アイデアとして受け止めてもらえる経験をしてほしかった。そういった場面がちょうど見られて、良かったと感じた。

楽器を通して、自己肯定感や創造性がより育まれると良いと感じたので、どの様な発言や行動も肯定する言葉をかけ、他のお友達からも、ふざけてしてしまう子ではなく、アイデアを持ったお友だちとして認められていくことで、より温かい雰囲気が形成され、より安定したクラス運営に繋がっていくのではないかと感じた。

楽器作りの際には、水を入れたいという意見が何人かからあったので、最初と感じた水の音を気に入ったのだと思った。

今回は、素材の音同士がぶつかる音を体験してほしかったので、水は入れないというルールにしたが、今後の活動の中で、お子様の要望通り水を使った音を作れる様な活動を実施したいと思った。